

すべての革新は患者さんのために

CHUGAI 中外製薬

Roche A member of the Roche group

AVASTIN bevacizumab

at the Front Line CHUGAI ONCOLOGY

日本標準品分類番号 874291

抗悪性腫瘍剤 抗VEGF<sup>注1)</sup>ヒト化モノクローナル抗体  
生物由来製品、劇薬、処方箋医薬品<sup>注2)</sup>

アバスタチン<sup>®</sup> 点滴静注用

100mg/4mL  
400mg/16mL

※効能・効果、用法・用量、警告、禁忌を含む使用上の注意、効能・効果に関連する使用上の注意、用法・用量に関連する使用上の注意等は製品添付文書をご参照ください。

〔資料請求先〕  
製造販売元 中外製薬株式会社 〒103-8324 東京都中央区日本橋室町2-1-1  
ホームページで中外製薬の企業・製品情報をご覧ください。 <https://www.chugai-pharm.co.jp/>

2017年10月作成

## TOPICS

新任医師のご挨拶

よこた ひろし

脳神経外科医師 横田 浩

令和3年7月より着任しました横田浩と申します。

平成9年に奈良県立医科大学を卒業後、奈良県、大阪府の基幹病院を中心に脳神経外科疾患の一通りの臨床経験を積んできました。その間、subspecialityとして国立成育医療研究センター脳神経外科で臨床研究員として国内留学をし、日本小児神経外科学会認定医を取得しております。患者さんおよび地域の先生方の御要望に応えることができるよう全力を尽くしたいと思います。何卒、宜しくお願い申し上げます。

かがわ あきお

小児科専攻医 香川 明生

本年7月より大阪南医療センター小児科に赴任致しました、香川明生と申します。私は近畿大学奈良病院にて初期研修を2年間、近畿大学病院にて後期研修の1年間を過ごしておりました。河内長野の小児医療に貢献できるように日々精進致しますので、どうぞよろしくお願い致します。

## 広報誌「南窓」のご意見・ご感想をお聞かせください

広報誌「南窓」をお読みいただき、誠にありがとうございます。

お客様一人ひとりの声をより良い広報誌作りに活かしてゆきたいと考え、ご意見・ご感想を募集しております。

皆様からのご意見は、今後の改善を進める上で参考にさせていただきます。上記のURL または QRコードよりフォームにアクセスが可能です。

※ご意見・ご感想への返信はいたしておりません。ご了承ください。ご意見全てにはお応え出来ない場合がございます。予めご了承ください。

<https://contact.osakaminamihosp.jp/>



独立行政法人 国立病院機構  
大阪南医療センター

地域医療支援病院 | 地域がん診療連携拠点病院  
〒586-8521 大阪府河内長野市木戸東町2-1 Tel.0721-53-5761 Fax.0721-53-8904  
<https://osakaminami.hosp.go.jp>

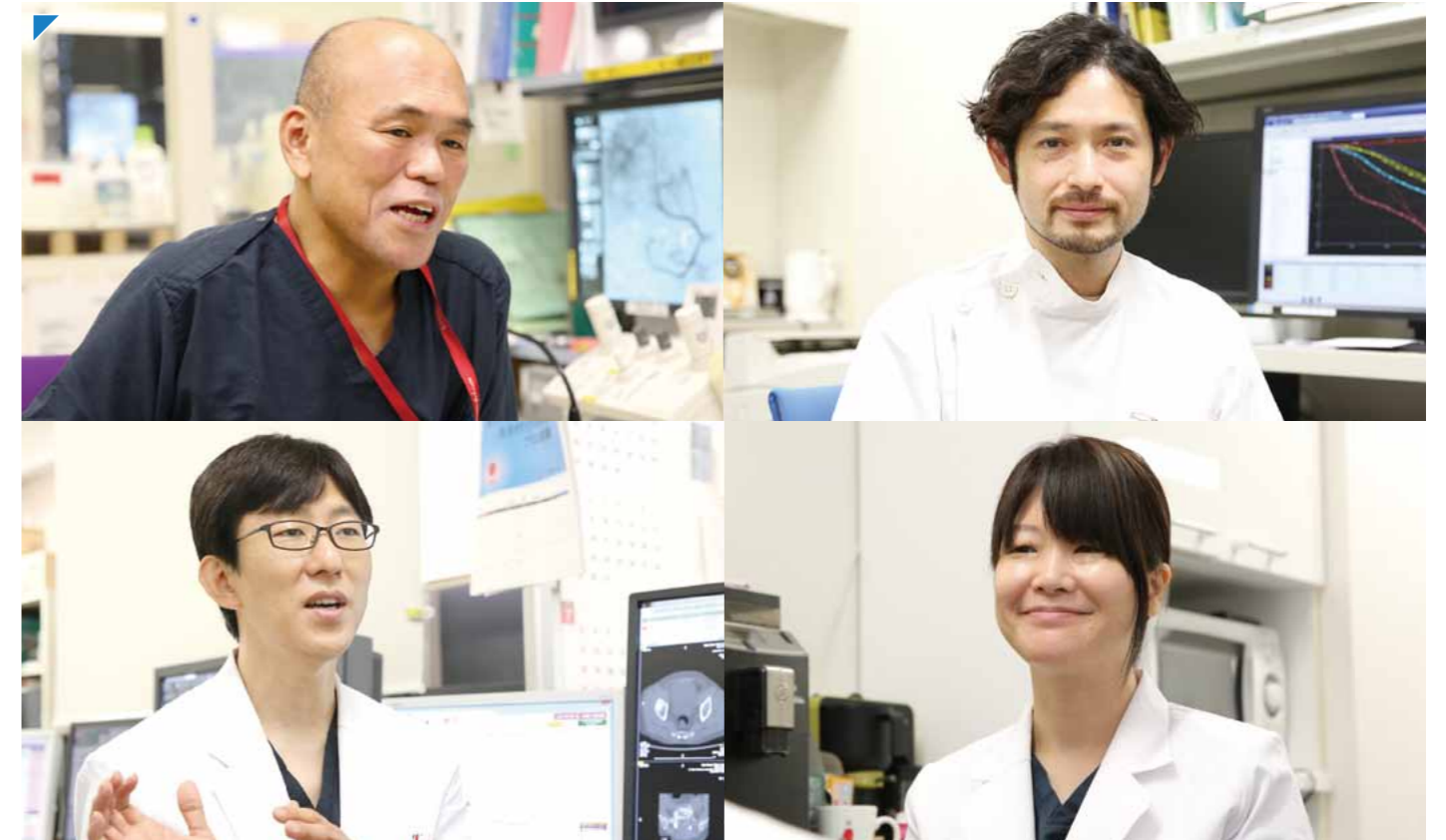


皆さんとともに大阪南の地域医療を支える広報誌

2021年8月号 No.12

独立行政法人 国立病院機構 大阪南医療センター  
National Hospital Organization Osaka Minami Medical Center

診療科 NOW 放射線科・IVRセンター



## 各分野の専門医が質の高い高度医療を提供する

IVRセンター部長

さかい ゆきまさ

医療情報管理室長

堺 幸正

なんごう みねよし

IVRセンター医長

南郷 峰善

放射線科医長

おぎの りょう

荻野 亮

放射線科医師

ひらかわ きょうこ

〔放射線科・IVRセンターの動画はこちら〕



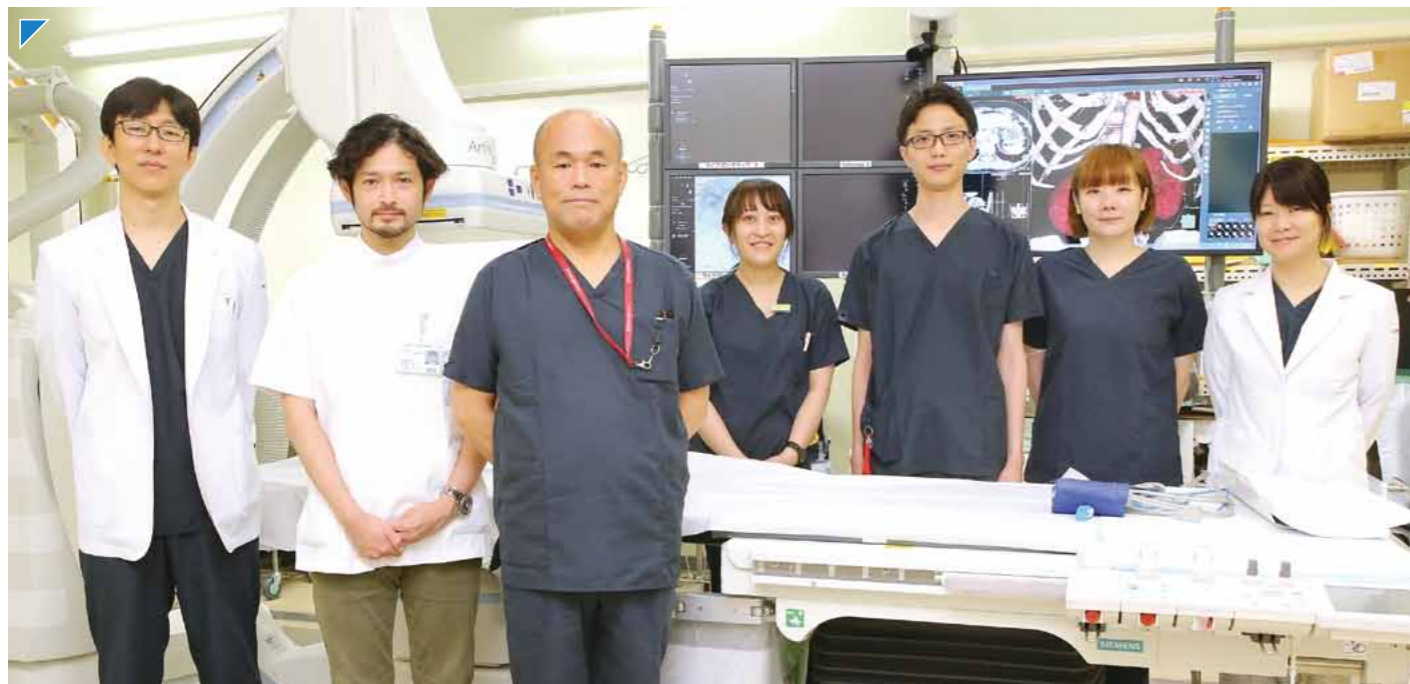
### IVR (画像下治療)

## 心身への負担が少ない IVR 治療 CV ポートは在宅医療に有用

堺 IVRIは高度な治療であるとともに、細い医療器具を挿入する小さな切開のみで手術ができることから、患者さんの体への負担が圧倒的に少ないのがメリットです。当科には3名の専門医が在籍し、適応するすべての手技を行っています。なかでも需要が大きいのは、CVポートの埋め込み術、透析シャントのバルーン拡張術、内臓動脈瘤塞栓術、また5年ほど前からようやく浸透した下肢静脈瘤の血管内レーザー焼灼術など。さらに他科との連携として、心臓血管外科との共同治療

である大動脈瘤に対するステントグラフト内挿術にも力を入れています。このうちCVポートは、ご存じのように血管が細い、あるいは脆い患者さんに対して、皮膚の下に埋め込んで薬剤を投与するために使用するもので、在宅医療において大変有用です。一般には血管の太い首や鎖骨からカテーテルを挿入することが多いですが、当科は超音波と血管造影装置を活用し、微小な切開で、上腕部より挿入するため安全に挿入可能です。高齢者へもやさしい手技と

いえますので、地域の先生方も、該当する患者さんがおられましたら、ぜひご検討をいただき、火木午後のIVR外来に紹介いただければと思います。最近のトピックとしては、関節、特に肩の痛みに対する動脈塞栓術があげられます。増えてしまった動脈が関節を刺激するのを抑える目的で行われ、保険適用となっていないのがネックですが、今後、当科でも取り入れたいと考えています。



### 画像診断

## 画像診断のスペシャリストが **24 時間体制** で医療を支える

南郷 放射線診断専門医4名が在籍し、翌営業日まですべての所見を管理します。つまり、依頼医自身での診断とは別に、必ず私たち放射線科専門医も画像を診てレポートを

作成することで、依頼医・放射線科専門医の双方で見落としのない、より高い精度での画像診断を可能にしています。若い先生方には画像診断における教育的な役割も担っています。

さらには24時間体制で「遠隔画像診断」システムを導入。専門医それぞれがパソコンやタブレットを保有しており、病院とオンコールでつながっていますので、夜間当直の時間帯であっても専門医が診断レポートを書き、診療時間帯と同じレベルを担保しています。このように夜間まで対応している病院は稀で、

関連施設病院では当院だけだと思います。放射線診断専門医のレベルが病院のレベルを左右するとよくいわれますが、私たちはその言葉を肝に銘じ、臨床医のサポートを通して、地域の患者さんの命と生活を守るべく、心をひとつに業務に励んでいます。平川 この機会にご紹介したい「VSRAD」は、アルツハイマー型認知症の原因である脳の萎縮を調べるMRI検査です。早期発見・治療に結びつけるという観点から有益性があり、アルツハイマー型認知症が気になる患者さんには、ぜひおすすめしたい検査です。



### 放射線治療

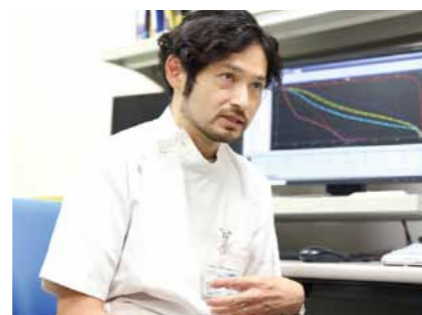
## 放射線治療の**効用**を**周知**し地域医療へさらなる**貢献**を

荻野 地域がん診療連携拠点病院、また南河内エリアで放射線治療設備を完備している2病院のうちのひとつとして、広く地域の患者さんに対し、年間200から215例のがん治療を行っています。放射線治療には根治照射と緩和照射のあることをご存じのとおりですが、実はまだまだ周知されていないと感じることがあります。たとえば、高齢者や根治的治療の難しい胃がんの患者さんで、出血のある場合は放射線治療が非常に有効です。しかしながら輸血を繰り返されていたり内視鏡での止血手術をされているケースが多いのではないかと思います。この

ように意外に知られていない放射線治療の適応やメリットもありますので、登録医の先生方には、診療科や地域連携室などを通じてご相談をいただければと思います。

トピックとしては、早期の肺がんが効果を期待されている体幹部定位放射線治療が、2020年4月より、オリゴ転移や脊椎転移、すい臓がんに対しても保険適用となりました。腫瘍に対して大線量を少ない回数でピンポイントに照射することで従来の放射線治療と比べると治療期間が大幅に短縮され、手術に匹敵する局所効果が期待できると同時に副作用の少ないことが特徴です。

保険適用以降、当院でも積極的に実施していますし、少ない回数での治療はコロナ禍においても推奨されています。



## がんと向き合う**患者さん・ご家族**、そして臨床の現場を全力でサポート



【緩和ケアサポートチームの動画はこちら】

緩和ケアセンター部長 緩和ケア推進室長・泌尿器科長 うえじま **上島 成也** しげや **がん看護専門看護師** こばやし **小林 久希** くき

### 患者さん一人一人が**主役** **在宅医療支援**も積極的に

上島 緩和ケアサポートチームは、身体症状・精神症状の専門医、看護師、薬剤師、臨床心理士、管理栄養士、理学療法士、医療ソーシャルワーカーがチームを組み、主治医・病棟看護師と連携して、患者さんとご家族の苦痛を緩和すべく、全力を尽くしています。特徴のひとつは、歯科の先生もチームの一員として毎週のカンファレンスに参加していただき、口腔ケアを推進していることです。

ドラマでいえば患者さんとご家族が主役、我々はあらゆる方面から主役をサポートするスタッフになります。私はチームリーダーではありますが、現場ではそれぞれがリーダーです。そしてロー、セカンド、サードとギアチェンジしながら、患者さんが患者さんなりのトップギアで安定した生活ができるよう支援したいと考えています。水曜日・木曜日には「緩和ケア外来」も設けており、そうした患者さんに対する直接的な緩和医療ももちろんですが、その前提として、各診療科の先生方も緩和医療の知識をお持ちですので、そこをさらに私たちや専門看護師・認定看護師がサポートし、必要に応じて助言



や提案を行い、医療従事者のストレスをも緩和することを大切にしています。

さらに今、在宅医療が推進されていますが、それを不安に思われる患者さん達によくお話することがあり、この機会に在宅診療をしてくださる先生や看護師さんにもお伝えしたいと思います。それは、病院のスタッフステーションが地域というなら診療所、病室がご自宅、廊下は道路で、道路には薬局や訪問ステーションやリハビリ施設等があり、地域を病院と見なせばできることはたくさんあるということです。もし在宅医療が難しくなれば、必ず当院がバックアップしますし、ホスピスや療養施設などの方向性もお示しできます。地域で助け合い、地域に根付いた緩和医療をぜひ推進していきましょう。

### 本当に**必要**な**サポート**を提供するために

小林 チームの中で、看護師は患者さんに最も近い存在です。がん治療の副作用やバッドニュースを受けたときの心理的落ち込みなどの情報もたらされたら、まずは患者さんから話を伺い、病棟や外来の看護師、主治医など関係する職種と情報共有をして、問題点を整理。必要なサポートについて考え、各職種につないでいくという役割が、非常に重要と考えています。さらにはがん以外の疾患における緩和医療についても、各職種のメンバーとともに勉強し、幅広く、きめ細かなケアやサポートで、患者さんの今に寄り添いたいと思っています。

